

論文要旨

アルバイト先における被差別感の原因帰属と間接的接触

—中国人日本語学校生と私費留学生の場合—

黄 美蘭

本研究では、中国人日本語学校生と私費留学生（以下、留学生）を対象に、アルバイト先における被差別感の原因帰属と日本人との間接的接触との関連について検討することを1つ目の目的とした。2つ目の目的は、被差別感の原因帰属と間接的接触及び両者の関連について、日本語学校生と留学生の比較検討を行うことである。

本研究は、全9章で構成される。第1章から第4章は文献調査、第5章から第8章は実証研究、第9章は総合的考察である。以下では、各章の内容について述べる。第1章では、中国人の海外留学を促進したプッシュ要因とプル要因及び日本留学に影響を与えた特徴的なプッシュ要因とプル要因について概観した。中国国内の海外留学を促進するような政策や制度、中国国民の海外留学志向の向上、海外諸国の中国人留学生を招致するための様々な措置がマッチングし、中国人の海外留学は今後も増加傾向にあることが示された。

第2章では、在日外国人留学生の推移、在籍状況及び私費留学生のアルバイト状況について述べた。また、外国人留学生の中で人数が最も多い中国人日本語学校生・留学生（以下、中国人学生）の推移、在籍状況及び中国人私費留学生のアルバイト状況について概観した。特に、中国人私費留学生の生活の基盤となっているアルバイト状況について、中国人日本語学校生と留学生の共通点と相違点が見られ、留学生のほうが日本語学校生より精神的・経済的に安定している様子が示された。

第3章では、在日留学生と日本人との異文化接触の際に生じる心理的問題について概観した。中国人学生は生活の基盤となっているアルバイト先において、被差別感という心理的問題が生じており、被差別感が対日イメージや異文化適応にネガティブな影響を与えていることから日本社会における偏見・差別問題を低減する必要性が示された。

第4章では、偏見・差別に関わる諸理論として原因帰属理論、接触仮説理論、間接的接触仮説理論について概観した。アルバイト先における中国人学生と日本人との接触の形態から、原因帰属理論と間接的接触仮説理論が中国人学生の被差別感を低減することに有効であることについて述べた。また、本研究ではこの理論的枠組みを援用し、中国人日本語学校生と私費留学生の比較検討を行うことを目的とし、本研究の研究課題を設定した。

実証研究である第5章（研究1）では、自由記述による質問紙を用いて、中国人日本語学校生がアルバイト先で認知する被差別感の事例とその原因帰属について調査を行い、質的手法であるKJ法で分析を行った。その結果、中国人日本語学校生はアルバイト先において、『日本人の店長』、『日

本人のアルバイト同僚』、『日本人の利用客』により被差別感を抱いており、その原因を『外国人/中国人の個人』、『外国人/中国人の集団』、『日本人の個人』、『日本人の集団』、『文化要因』に帰属させている傾向が見られた。また、「個人的な話ができる日本人の友人がいる」場合は、被差別感の原因を日本人の集団全体に拡大して帰属させない傾向が見られた。

第6章(研究2)では、第5章(研究1)で得られたアルバイト先で生じる被差別感の事例の中から、典型的だと思われる2つのシナリオ場面(シナリオAとシナリオB)を設定し、中国人日本語学校生を対象に、被差別感の原因帰属と日本人との間接的接触、及び両者の関連について質問紙による量的調査を行った。その結果、原因帰属においてシナリオAとシナリオBとも、『外集団要因』、『内集団自己要因』、『内集団他者要因』、『文化要因』の4因子が抽出され、日本人との間接的接触においては、『友人の自己開示』、『肯定的集団間意識』、『友人の集団間安心』、『友人の集団間不安』の4因子が得られた。両者の関連については、中国人と日本人の相互関係が友好的でないことと認識し、日本人の友人が少ない人は、日本人への偏見が生まれ、アルバイト先での処遇に高い被差別感をもっていることが示された。

第7章(研究3)では、中国人日本語学校生を対象にした第6章(研究2)と同様のシナリオ場面と理論的枠組みを用い、中国人留学生を対象に調査を行った。その結果、被差別感の原因帰属として、シナリオAでは、『外集団要因』、『内集団他者要因』、『内集団自己要因』、『偶然性』の4因子が得られ、シナリオBでは、『外集団要因』、『内集団他者要因』、『内集団自己要因』、『文化要因』、『偶然性』の5因子が抽出された。また、日本人との間接的接触として『肯定的集団間意識』、『友人の自己開示』、『友人の集団間不安』、『間接的友人関係』の4因子が抽出された。両者の関連については、日本人との相互関係を否定的に認識する場合と、年齢が高い人がアルバイト先における処遇に高い被差別感が生じる可能性が示された。

第8章(研究4)では、アルバイト先における被差別感の原因帰属と日本人との間接的接触の因子構造、及び両者の関連を検討した重回帰分析の結果について、中国人日本語学校生と留学生の比較検討を行った。その結果、日本語学校生にとって日本人の友人をもつことの重要性と中国国内における学校教育の重要性が明らかとなり、留学生にとっては、年齢差による差異が見られ、特に、年齢が高い留学生と日本人学生との交流や彼らの日本社会への適応問題に目を向ける必要性が明らかとなった。

以上の実証研究の結果を踏まえ、第9章では総合的考察を行った。被差別感の原因帰属と日本人との間接的接触及び両者の関連について、中国人日本語学校生と留学生の特徴を踏まえ、コミュニティ心理学の理念に基づいた支援のあり方を概観した。